

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社 ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田		
所在地 (電話番号)	静岡市駿河区鎌田121-1 (電話) 054-268-0206		

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年8月22日		

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	9人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 耐熱鉄板葺造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,450 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円~1,200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:12ヶ月~80か月)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		735円	

(4) 利用者の概要(8月 8日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城西神経内科クリニック・近藤歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、駅から徒歩5分の果樹園・民家に囲まれた静かな環境に位置している。職員の声かけや接し方は静かで促しもさりげなく行われている。管理者・職員共に利用者や家族にとってより良い方法とは何かを常に考えており、熱意を持って取り組んでいることが汲みとれる。地域への働きかけは、関係づくりの構築を念願に置き、ホームを知ってもらうためにイベント時の会場の提供、子供の慰問活動の受け入れ、防災訓練、散歩時のごみ拾い等に地域の協力を得ながら取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への働きかけが希薄であったため、子供の慰問活動の受け入れ等を行い、地域への認知を図った。運営推進会議や家主・自治会長の協力が大きい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員各々が評価の意義を共有し、サービスの質の向上を目指して取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長・民生委員・家主・家族会代表・施設側の参加により開催している。防災の取り組み、地域交流等の活動報告を行い、家族からの意見や要望を受け、運営に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催やホーム便り・電話や来訪時など意見が出しやすいよう働きかけている。記録により即対応している姿勢を確認した。家族アンケートも概ね良好である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	家主・自治会長等の協力もあり、地域との関わりが深くなっている。場所の提供やボランティア・子供の受け入れ、草取り等を継続している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ずっとあなたらしく」「ずっと快適な毎日を」「安心と安らぎを創る」を理念として、利用者を尊重している。地域との関係性を重視し、地域との交流に努めていることを運営方針に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、利用者ができる事や体力維持について、個々の情報を共有し、言葉掛けや態度に配慮した支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、家主・自治会長との連携に努めている。フェスタ鎌田への参加や秋祭りの開催を計画したり、地域の住民と共にゴミ拾いを行い、運営推進会議では、地域への働きかけや交流の様子を報告している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を共有し、職員全員で取り組んだ。問題や課題を明確にし、質の向上につなげたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は6ヶ月に一回の開催である。会議は、町内会長(民生委員兼務)、家族会、施設職員(施設長・ケアマネ・ユニットリーダー)で構成されているが、行政側の参加はない。日常生活・行事・レクリエーション・防災訓練・地域交流等を報告し、意見をもらう場としている。	○	開催頻度を増やし、市担当者にも出席してもらえるよう働きかけていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口には、実情報告を行っているが、連携は十分ではない。	○	運営推進会議への出席依頼を通して関係づくりに努めることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月かまた通信「あじさい」を発行し、利用者の暮らしぶりがわかるように行事や日々の様子等のスナップを掲載している。また金銭管理については、電話や来訪時に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、電話や来訪時等を捉え、何でも言ってもらえるよう促している。意見や苦情は、会議で話し合い、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが、利用者、職員共にユニット間の日々の動きが流動的で、影響を最小限にするよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修の必要性を考慮し、内部研修を定期的で開催している。また、本年2月から職員各自が目標を設定し向上に努めるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として他の老人保健施設やグループホームでの研修や交流を行っており、管理者が出席している。	○	職員にとって、同業者との交流・連携は、自らのサービスを見つめ直す機会であり、質の確保につながるため、多くの職員が取り組んでいくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族へ見学を促している。実際に生活の場を見てもらい、要望や不安等を確認し、個々の状況に併せて利用を開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式に取り組み、利用者各々の性格や状態・出来ること等、より細やかな利用者把握に努めている。食後の後片付け等も利用者同士の役割分担を尊重し、押し付けにならないように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情・動きから、思いや希望を知る事の積み重ねや一緒に行動する中で情報を得ている。把握した内容は、センター方式を利用し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に家族と職員が話し合いながら介護計画を作成している。	○	介護計画への反映にケアマネージャーの利用者把握や職員の思いの汲み取りに開きがあるため、ケアカンファレンスやモニタリングを行い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画作成の取り組みに期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、随時見直しを行い、変化のあった場合は、家族の意見をもらい、新たな介護計画を作成している。	○	計画の遂行状況や効果(何がどうしたか)の記載について、具体的に記載することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じ、家族と連絡を取り、かかりつけ医の受診、理容院や里帰り等の支援を行っている。また、地域包括支援センターと連携を取るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添った受診支援を行っている。協力医療機関は往診も可能であり、受診結果について共有している。また、認知症の相談にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたケアについて学び、職員間で協議している。利用者・家族の要望があれば、かかりつけ医の協力の下に進めている。チーム支援として全員で方針を共有する事に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねない対応について、日々意識して取り組んでいる。個人情報の開示には同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースや気持ちを尊重し、散歩や菜園づくり、食後の片付け、おしゃべり・テレビをみる等、見守りの中で自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや当日の様子を見ながら職員と利用者が同じテーブルを囲んで同じ物を食べている。後片付けも職員と利用者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開放日が一階利用者と二階利用者で交代となっており、利用者が希望する入浴支援はできていない。	○	入浴は生活の楽しみであり、利用者の希望に応じて、入浴可能となる体制づくりを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にとって何が楽しみで何ができるのかをセンター方式を使って、把握に努めている。菜園づくりは、農業をしていた利用者を中心に行われ、収穫や調理にも役割分担がある。個々の力を活かすことができるため、今後も続けて支援していきたいと考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出可能な利用者は自由に外出している。近所のゴミ拾いは、自発的に行い、習慣化している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。さりげなく声かけをしたり、付き添いを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は町内会の協力を得て、施設訓練と合同で実施している。運営推進会議でも、家族が危惧していることであり、家主や自治会長を通し、日頃から地域への協力依頼を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスを考え、栄養士と現場スタッフで相談しながら作成している。水分摂取は個々に応じて促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりとしたスペースがあり、中庭に面した食堂やホールは陽ざしが入り、居心地よく過ごすことができる。浴室の脱衣場は棚があり効率良く利用している。トイレも車椅子対応可能となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しみのある品を身近に多く置いている人、少ない人各々である。家族訪問時に相談しながら利用者が居心地よく過ごせる様工夫している。		